

人と音を結ぶ
Classic Nagoya
クラシック名古屋
〒460-0024
名古屋市中区正木四丁目8番7号れんが橋1F
TEL: (052) 678-5310 FAX: (052) 678-5330
<http://clanago.com>

プレイガイド
アイ・チワット
☎ 0570-00-5310

ナゴヤ劇場ジャーナル®

◆発行/マネージメント・プロ ◆編集/プランニングオフィス白壁 ◆協賛/クラシック名古屋

MP MANAGEMENT PRO
①舞台イベントの企画制作・マネジメント
②芸術コンサルティング
③タレントのマネジメント
④ナゴヤ劇場ジャーナルの発行

株式会社マネージメント・プロ
〒461-0004 名古屋市東区葵2-11-22 アバンテージ葵ビル305
TEL: 052-508-5095 FAX: 052-508-5097
E-mail: mane-pro@mane-pro.com
HP: <http://www.mane-pro.com>

同日に劇場では第七劇
手記などを語り掛けた。
「アーティスト」
鹿目由紀の演出で小熊ヒ
ムンクの名画を前に、俳優が鑑賞者の間を移動し
ながら、彼の残した手紙、手記などを語り掛けた。

前号の「ベストステージ2020」(音楽部門)
に続き、同・演劇部門を振り返る。
県芸術劇場と県美術館によるイプセンの戯曲「幽霊」と、ムンクの絵画「イプセン『幽霊』からの一場面」のコラボ企画(1月12日)が印象深い。美術館でのパフォーマンスはムンクの名画を前に、俳優が鑑賞者の間を移動し、ながら、彼の残した手紙、手記などを語り掛けた。



(デザイン・親泊麻由香)

本紙が選ぶ2020ベストステージ(部門)

「青森県のせむし男」「幽霊」俳優館、舟木淳

前号の「ベストステージ2020」(音楽部門)に続き、同・演劇部門を振り返る。県芸術劇場と県美術館によるイプセンの戯曲「幽霊」と、ムンクの絵画「イプセン『幽霊』からの一場面」のコラボ企画(1月12日)が印象深い。美術館でのパフォーマンスはムンクの名画を前に、俳優が鑑賞者の間を移動し、ながら、彼の残した手紙、手記などを語り掛けた。

場・鳴海康平の演出で「幽霊」を上演。ムンクの手記などを効果的に組み込みながら作品の時代を超える魅力を際立たせてみせた。登場人物全員の心象が生々しく伝わる中、アルヴィング夫人を演じた木母千尋は特に凄みがあった。

エス・エー企画「青森県のせむし男」(G/PIT、2月15日)は、寺山修司の描いた異形の人間模様を、劇団あおきりみかんの演出で小熊ヒムンクの名画を前に、俳優が鑑賞者の間を移動し、ながら、彼の残した手紙、手記などを語り掛けた。

2020年2月13日(木)~16日(日)
会場 G/PIT (LANDMARK THEATRE OSAKA)
(デザイン・親泊麻由香)

炎、ラストの客席を文字通り包み込む舞台美術。脚本へのリスペクトと斬新なアイデアに溢れた挑戦はどれも効果的。五感まで感じられる蠟燭の炎、ラストの客席を文字通り包み込む舞台美術。

脚本へのリスペクトと斬新なアイデアに溢れた挑戦はどれも効果的。五感を揺さぶられながらも、言葉が頭に焼き付けられたのは、熱量と冷靜さで繋張感を保った俳優陣の力量だろう。

昨年はコロナの逆境下で挑んだ様々な労作・意欲作が確かにあった。それでも舞台・客席を存分に取り戻すべき空間・体感として記憶に留めておきたい。

既存の地元劇団では俳優館が氣を吐いた。8月には「1945年8月6日のヒロシマ・ひろしま・広島」のタイトルで3作の反戦作品を連続上演。12月にも平塚直隆の演出で「ブンナよ、木からおりてこい」を上演。人材の載します。

木母千尋は特に凄みがあった。登場人物全員の心象が生々しく伝わる中、アルヴィング夫人を演じた木母千尋は特に凄みがあった。

エス・エー企画「青森県のせむし男」(G/PIT、2月15日)は、寺山修司の描いた異形の人間模様を、劇団あおきりみかんの演出で小熊ヒムンクの名画を前に、俳優が鑑賞者の間を移動し、ながら、彼の残した手紙、手記などを語り掛けた。

2020年2月13日(木)~16日(日)
会場 G/PIT (LANDMARK THEATRE OSAKA)
(デザイン・親泊麻由香)

厚さと機動力をを見せ、非常にこそ問題われる、劇団の存在価値を示した。

地元演劇界の重鎮・舟木淳の米寿記念公演「男の花道」(11月)も印象深い。多数の出演者の中で、最も巧みな演劇術を見せたのが舟木だった。自らのモットーである「役者は演ずる者ではない。役を生きる者だ」を鮮やかに体現した。また演出の菊本健郎さんが、公演直前に他界されたのも衝撃だった。出演者は、公演終了後、それを知らされたという。

(竹本/上野)

「歌を通して自分を磨きたい」

下生になつた。07年と17年にはシャンソンコンクール中部大会に入賞して全国大会へ進出。エルムでのステージも好評でファンも増えた。そして昨年、20年のキャリアを踏まえCDアルバム「愛と人生の歌!! シャンソン」をリリースした。

「好きだけでは物足りない。歌手として、さらにランクアップしたい」と、口仮シャンソン協会日本支局長・加藤修滋のレッスンを受けるようになつた。

「シャンソンと合いつ

たことで、充実した日々を送っています。歌を通じて自分を磨き、コロナ禍で疲弊した人の心を癒したい」とレッスンに励む毎日だ。

素直に歌うことの難しさ。歌い手なら誰もが実感している課題である。シャンソン歴20年の加藤朱実は、「パワフルに歌い上げることが、自分の強みだと錯覚していまして。ようやく最近、力を抜くコツがわかつて来ました」と納得する。

加藤が暮らす岐阜県可児市にシャンソン教室ができるのが2001年。カラオケでは物足りないと感じていた彼女は即入会。「エルム」のス

ケストラにはない機動性がある。最初の「ラヴェル」で多くの発見がありました

「例え

ば、カルテット(四重奏)の場合、稽古も含めて4倍の労力が必要になります

「確かに手間暇は掛か

ります。でも成功すれば喜びも4倍になる。それ

はメンバーそれぞれが

アノだけでは出来ないことがあります

「そもそも室内樂に

目を向けるのは?

「自分の好きな作曲

家、好きな曲ばかりを弾いていたのでは勉強にならない。室内樂ならピアノだけでは出来ないことが出来る。またオーディ

ミでです」

「ラヴェル、ラーム

ス、フォーレが続いています

「2人目のラームス

リーズが続いています

実感しています

「確かに手間暇は掛か

ります。でも成功すれば喜びも4倍になる。それ

はメンバーそれぞ

れが

うれしく思います」

「2020年はコロナ禍に振り回された1年でした。自由に公演ができるようになつたら、昨年上演できなかつた『海賊』など大作の上演、それと並行して減多に上演されることのない小品、新作にも取り組みたい。前進あるのみの受賞で些細な悩みが吹き飛びました」

「悲運の年でした。自由に公演ができるようになつたら、昨年上演できなかつた『海賊』など大作の上演、それと並行して減多に上演されることのない小品、新作にも取り組みたい。前進あるのみの受賞で些細な悩みが吹き飛びました」

「越智久美子さん死去から5年。久美子さんは代表者、芸術監督として大きな責任が加わりました。体調を崩されたとともに、聞いていますが…」

「一時は歩くこともままならない状態でしたが、すっかり回復していま

す。休養中、自分のバレエ

団の公演を客席から見る

ことができたのも、良い

経験になりました。今回

の受賞で些細な悩みが吹

き飛びました」

「2020年はコロナ

禍に振り回された1年で

した。越智バレエの今後について聞かせてください。

「近年の活動が認められうれしい」

△越智久美子▽

2016年、越智イン

ターナショナルバレエ工代

表に就任。同年「ドン・

キホーテ」の芸術監督を

務め好評を博した。19年

の創立70周年記念公演

「ロミオとジュリエット」

では演出・振付・主演を務

め、名古屋市民芸術祭特

別賞を受賞。近年は国内、

海外のバレエコンクール

審査員としての活動も頑

著。

以下は一問一答。

△越智久美子▽

第3回 チャレンジ・コンペティション

日付 2021年5月16日(日)11:00~(予定) 会場 名古屋市芸術創造センター

審査員

マシモ・アクリ
塚本 洋子
高宮 直秀
神澤 千景
小野 由加利

参加部門

- バレエシューズ部門 8~11歳
- 5部門 9~10歳
- 4部門 11歳~12歳
- 3部門 13歳~14歳
- 2部門 15歳~16歳
- 1部門 17歳以上
- ボイズジュニア部門 13~16歳
- ボイズジュニア部門 17歳以上
- コンテンポラリー部門 11歳以上
- グループ部門(ジャンル問わず) 2名以上

参加料

- チャレンジ・コンペティション
19,000円(税込)
 - プレコンペティション
16,000円(税込)
 - グループ部門
25,000円(税込)
- (3人目から一人増えるごとに5,000円頂きます。)



名古屋フィルハーモニー交響楽団が、2021年4月~22年3月のラインナップを発表した。創立55周年を迎えた「スペ

55周年の名ファイル
新年度のテーマは
「スペシャリティ」

コロナ禍で指揮者やソリストの調整が大変だったと言う小泉監督は、「暗いことを考えるより、お客さんに元気、勇気を与える演奏をしよう」と団員に呼びかけた。7月、9月、11月、来年1月と定期公演に出演し、手内のアルックナー「交響曲第5番」や、メンデルスゾーン「イタリア」などを振る。

正指揮者の川瀬賢太郎

は12月の定期。元常任の沼尻竜典は4月にショスト

カーヴィチ「交響曲第11番」。井上道義が来年3月に同じく「第8番」。大植英次は6月に「オーレ

「レクイエム」を聴かせ

る。市民会館名曲シリーズ

は、小泉が4月に小品集、川瀬が7月にリサイタル

曲と、50周年の好評企画

を再現。来年1月は円光

負を述べた。

寺雅彦がチャイコフスキーサン三大協奏曲をま

奏する。

スター・クラシックス・アカデミー一期生

3月27、28日 しらかわホールで成果を披露

若手演奏家を総合的に育成するプログラム「スター・クラシックス・アカデミー」の一期生10人が、一年間の講習を終え成果を発表するガラコンサート

27日はピアノ市橋杏子、渡辺友梨香、伊藤香紀、ヴァイオリニン大倉彰人、クラリネット・マソン(北山)優貴葉、28日はピアノ古田友哉、フルート山本葵、ヴァイオリン水越菜生、ソプラノ水谷有南、山岸裕梨が出演。

ソロ演奏のほか愛知室内オーケストラと共に演

で、27日はショパン「ピアノ協奏曲第2番」「ラフ

マニノフ「パガニーニの

主題による狂詩曲」、28日

はモーツアルト「フル

ト協奏曲」、ドニゼッティ

内オーケストラと共に演

で、27日はショパン「ピ

アノ協奏曲第2番」「ラフ

マニノフ「パガニーニの

主題による狂詩曲」、28日

はモーツアルト「フル

ト協奏曲」、ドニゼッティ

ソロ演奏のほか愛知室内オーケストラと共に演

で、27日はショパン「ピ

アノ協奏曲第2番」「ラフ

マニノフ「パガニ

